

令和6年度第1回桑名市ブランド推進委員会 会議概要

日時・場所	令和6年10月25日(金) 10:00～12:00
出席者	委員： 6名 市長： 1名 事務局
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市長あいさつ 3 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 桑名ほんぱく 2024 について (2) パブリックリレーションズ事業について (3) 桑名エリアマネジメント都市再生推進法人の取組について 4 報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 六華苑の現状について (2) 桑名市外国人支援コンシェルジュサービスについて 5 その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 多度エリアマネジメントについて 6 閉会
概要 (主な意見)	<ol style="list-style-type: none"> 3 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 桑名ほんぱく 2024 について <ul style="list-style-type: none"> ○ 事務局として独り立ちをしてきているのであれば、自前でやっていくことを考えても良いのではないか。 ○ 通年開催も視野に入れて動いているのは良い。桑名市民も含めて観光として体験コンテンツがあるのは強い。初めての方に桑名を知ってもらうことが大事。民間委託を考えていくなかで、プログラムの魅力づくりをやっていないといけない。 ○ 持続的に開催するには、転入して間もない人がどういう思いをもったかが重要な要素。転入して間もない人がいかに参加しているか、どういう印象をもったかアンケートで取ると良い。 ○ 今年も桑名らしさや面白いコンテンツが増えてきたと印象を受けた。新規の参加者を取り入れるために今まで触ってこなかったジャンルを取り入れてはどうか。 ○ 広告が増えたことが賑やかであり、これだけの事業者が参加してくれていることが素晴らしい成果だと思う。運営者の連携が必要。民間委託をしていくことは大事だが、新規の方や学生などいろんな方に運営に関わってもらえるとまちの魅力になる。 ○ 個人のプログラムが多くみられるので、企業の研修目的にもなるようなプログラムがあると面白いと思う。 (2) パブリックリレーションズ事業について <ul style="list-style-type: none"> ○ 今後も市在住の外国人が増加していくことを考えたとき、世代間ギャップとか、デジタルとの融合、共生していくまちだというリレーションが大事。まずは英語から始めていくことは言語の観点として良いと思う。

- これからは地球をフィールドとして、学びを通して国を超えた交流が起きてくるのではないかと考えている。
- 日本人側も英語と聞くと引いてしまうところがある。日本人側がやさしい日本語を使うように、やさしい英語を使い英語のハードルを下げることによって「イングリッシュ・フレンドリー・シティ」のコンセプトにも合っている。双方のハードルが下がって、フレンドリーにコミュニケーションが始まっていくことが可能ではないか。
- 前回の委員会から全体的に動き出していて、スピード感があることが素晴らしい。大げさにするよりも、デジタルを活用してどうコミュニケーションをとるかなど、大学生とか若い世代を巻き込んで国際交流を推進していくという視点があっても良い。
- 情報発信として、まず見た目で行きたい、食べたい、体験したいが分かりやすいものを作って、何で発信していくかを考える方が早い。それで上手くいったものを多言語化して、情報を出していく。
- 桑名ほんばくに外国の方のことを理解するようなプログラムを入れて、遊びの感覚で相手のことを知れるようなシステムを作ると面白いと思う。
- 国際交流イベントに外国人に参加してもらうことがすごく難しい。いかに地域のコミュニティの方とつながるか、巻き込んでいくことが重要。

(3) 桑名エリアマネジメント都市再生推進法人の取組について

- ウォークブルの話題でいくと、旧東海道を未来に向けてどうしていくか。今までは自動車中心に社会、経済が回っていたが、色んなシステムや価値観が変わってきた中で、歩いて楽しい、人間中心にシフトしていくべきだと思う。
- 事業立ち上げのときに近隣住民とのスタンスのすり合わせに時間がかかる。事業を進めていく中で意思疎通することが大事。
- ウォークブルなまちというのも住吉地区周辺の中でこれから景色が沢山作られていくと思うが、海外、日本、地元、市外の人が混ざり合う良い文化というのが、どんな景色としてできるかが楽しみである。
- 収益は桑名ほんばく、観光ツーリズムが重要になってくるので期待出来ればと思う。川沿いのエリアが景観の部分でもったいないなと思う部分がある。
- 桑名にはナガシマという集客力のある施設がある。川の対岸で興味を引くような仕掛けづくりが出来ると良い。

4 報告

(1) 六華苑の現状について

- 六華苑は桑名の顔だと思う。耐震補強もふまえて、保存しながら今後どう活用していくか。利用するだけでなく、文化価値として、観光価値としても使っていくという意味では主軸になる。
- 今後、六華苑を修繕しながら、どういう場所としてみんながシビックプライドを持ちながら関わっていけるかということに関心がある。保存していく六華苑と活用の観点で新たな次世代にどう残していくか、どういうコミュニケーションとしての場所にしていくかを議論できたら面白いと思う。

- 文化庁の方でも文化財の観光、他分野での活用、経済化というのは言われている。観光系の活用を進められると良い。
- 良い文化財だからこそ、今の保存の仕方を守りながらも、今は想定していないような新たな分野での活用が出来ると良い。
- 六華苑の価値というものを、改めてどうしていくべきか考え、どう活用していくかをイメージしながら修復していくと良い。
- 文化財として保存するというのは、文化価値を分かっている専門家であるほどそのまま保存しなくてはいけないということから、ものすごく時間、手間、費用がかかる。それも大事だが、どう活用をして、今持っている以上の価値を未来に与えていくかも大事。
- どうしても莫大な費用をかけて元あった六華苑にするという考え方が残っている。税金を投入するので、未来にどういう活用をしていくか、工事の仕方から考えないといけない。六華苑の活用を考えただけで、創建 120 年にはより良い形で発表できるようにしていきたい。

(2) 桑名市外国人支援コンシェルジュサービスについて

- 外国人の方が来たからトラブルが発生したというのが一番良くないと思っている。桑名市に転入する際に、ごみの出し方とか桑名市はどういうまちですと事前に説明するコンシェルジュサービスをスタートした。
- コンシェルジュサービスは良い取り組み。注意しないといけないのが、最初に沢山の人が相談に来るが、業務以外のことがかなりきてしまうこともあり、相談員に負担がかかる。業務以外のことは周りで対応していくことを徹底していくと良い。

5 その他

(1) 多度エリアマネジメントについて

- まちづくりの活動は他のエリアにも波及しながら桑名の街全体が良くなっていくこと、まちづくりを主体的に自分のこととして市民が捉えていくことが大事。多度地区でも地元の若手がマーケットを開催したり、バーベキューハウスを作ったりと頑張っている。エリアマネジメントの活動を勉強会から始めて、できれば都市再生推進法人の取得まで頑張ればと考えている。